自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503700), 法人名 (北海ケアサービス(株)), 事業所名 (グループホーム 北海ハウス二番館(すみれ)), 所在地 (札幌市白石区北郷8条3丁目6-3), 自己評価作成日 (令和4年11月24日), 評価結果市町村受理日 (令和5年5月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

札幌新道に面した和風の格子戸が目印のグループホームです。中も木をふんだんに使い、明るく落ち着いた雰囲気です。皆が集まって過ごすフロアは、季節の飾りつけや皆で作成したカレンダーが掛けられて、季節の移り変わりが分かるように工夫しています。中庭には、春になると色とりどりのお花や野菜を植え、水やりをしながら外気浴をして、野菜の実がなれば収穫を楽しみながら過ごしています。夏には地域の方やご家族とバーベキューをします。冬にはフロアが幻のホッカイ居酒屋になります。調理の職員が居るので、スーパーに買い物に行き、自分たちの眼で見極めて買い物をするので、新鮮で旬な物が食卓に並びます。お刺身も出ます。全てホーム内で調理をするので、臭いや材料で今日のおかずを当てる入居者さんも居て、毎日の食事がとても楽しみになっています。コロナ禍で外食や外出の機会は少なくなりましたが、その分ホーム内でのレクリエーションを工夫して行っています。午前中は体操や脳トレ、午後からはカルタやトランプ、皆でクロスワードパズルで盛り上がりたり、カラオケ等も行って賑やかに過ごしています。認知症があっても、安全に安心して、楽しく暮らせる家を「笑顔で 明るく やさしく」を理念に掲げて、職員一同で目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170503700-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年12月13日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で 明るく やさしく」を理念に掲げ、地域の方とも協力しながら、管理者と職員が理念を共有して日々の業務を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中庭でのバーベキュー等のイベントを通じて地域の方と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大きな取り組みはしていないが、ご近所の方との何気ない会話で、認知症の理解や支援の方法を聞かれたり、話したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の様子や取り組みを報告し、評価や意見を頂き、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の担当者と連絡を密に取り、実情や取り組みを伝えたり、アドバイスをもらったりしながら協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化委員会を開催して、具体的な禁止行為を確認し、スピーチロックも含めて身体拘束を正しく理解し、その後職員の社内研修も行っている。ただし、玄関の施錠については、安全性を優先して、入居時にご家族に説明をして、了承を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は外部研修に参加できず、社内研修のみになっている。常に更衣や入浴時に全身のチェックを行い、痣の確認等を行い、職員もストレスをためない様配慮しながら、決して見過ごされる事がないよう注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の判断で、自立支援事業や成年後見人制度を、必要に応じて関係者と話し合いながら活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、十分な説明を行って理解と納得を得ている。今回は水道光熱費の値上げをせざるを得なく、同意書を頂いた。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、郵便物のやり取りの際にメモ書きで、近況の報告と要望や意見を促して、出来る事は運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なるべく皆が仕事がし易い様に、職員の意見や要望・提案を聞く機会を設け、出来る事は反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員個々の勤務状況や、努力を把握して代表者に伝え、各自が向上心を持って働ける様に、職場環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍になり、なかなか外部の研修に参加することが難しくなっている。法人内ではリーダー・サブリーダーの指導のもと、働きながら身につけていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内での管理者は定期的に交流する機会はあるが、コロナ禍になってからは他同業者との交流機会が無くなってしまった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の時点で本人が困っている事や、要望にどれだけ応じられるかを相談している。納得頂いてからのサービス利用を開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族の情報や要望をお聞きして、どれだけ添えるかをお互いに確認してからサービスの利用を開始している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する時点で、他のサービス利用も含めて、その時に必要な支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各人の残存能力を活かし、出来る事は手伝ってもらったり、一緒に行ったりして、共に生活している関係を築きながら日々を過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を大切にして、本人にとってより良い方法を共に考えながら、本人を支えていく関係を築く様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪は殆どなくなっている。コロナの影響もあり、馴染みの場所へ出掛ける支援が出来なくなっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して、職員がクッションになりながら、交流したり、お互いに支えあえる様な支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いや希望の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴や環境、利用していたサービス等をできる限り把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの暮らしや、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の問題事があれば、解決する方法を皆で検討し、より良く暮らせるよう、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの記録をして、職員全員で情報を共有し、より良いケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じた柔軟な支援やサービスが出来る様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、職員が同行すれば利用できる事等見極めて、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重して医療機関を選択し、関係を築きながら、適切な医療を受けられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で情報を提供して相談している。提携病院の看護師には、何かあると報告・相談し、必要があれば医師からの指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃の情報を提供して、安心して治療出来る様、また出来るだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談を密に行い、良好な関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の過ごし方は早い段階から話し合いをし、事業所で出来る事を説明して方針を共有し、関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には、慌てずに応急手当や初期対応ができる様にしている。管理者はいつでも連絡を受けられる体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には利用者が避難できる方法を全職員が訓練を繰り返して身に付けている。地域との協力体制も築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない様な言葉かけや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てを合わせる事は出来ないが、なるべくそれぞれがその人らしく毎日を過ごせる様な支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後は、化粧水や眉墨等、各自の要望に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お膳拭きや、お茶詰め等を出来る方と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日トータルに必要な食事や水分が確保できるように、それぞれの状態や力、好みや習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを記録し、様子を観察する等して、なるべくトイレで排泄できる様に声掛けや誘導をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動の働きかけをしながら、医師とも相談して、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯をずらす事は難しいが、それぞれの希望やタイミングに合わせて、好きな入浴剤を使う等して入浴を楽しむ支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活のサイクルや、その日の状態に応じて休息したり、毎日安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの抱えている病気や薬の副作用、用法や容量について理解し、絶対に誤薬や飲み落ちのない様に注意して、服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やそれぞれの有する力を把握し、好みや出来る事で、生活の中での役割を担えるよう支援している。また、嗜好品、楽しみごと等で気分転換も出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中でも、出来るだけ安全を確保して外出できるように支援している。ただ、ADLの低下や認知症の進行等で遠方への外出は難しくなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行で、お金を所持しても、あちこちに隠したり盗まれた等で失くしてしまったり、逆に不穏になる事が多く、今は所持出来る力を有していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末には年賀状の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は音や光、温度などに配慮して居心地よく過ごせる様に気を付けている。フロアには季節の飾りつけをし、動物のカレンダーを掛ける等して、皆が笑顔で過ごせる様な工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間であっても、独りで居たい時は関わらずにそっとしておいたり、気の合った利用者同士でおしゃべりしたり、それぞれが好きなように過ごせる様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好みの物を置いて、本人が居心地よく安心して過ごせる様な工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札や飾りをつけ、トイレには案内板をつける等して、なるべく迷いのない様に工夫をしている。		